Education first !!

久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第２9号　　2018 年 9月発行

医学教育WSが開催されました。

8月18日（土）、19日（日）に基礎3号館1Fにて医学教育WSが開催されました。メインテーマは、「国際基準による教育評価」でした。４つのサブテーマ「使命と教育プログラム、教員と教育資源、学生評価とプログラム評価、臨床実習と学外体験実習」に分かれて、様々な議論がされました。また、19日には「教育力の重要性と現状把握」と題して、柏木が特別講演を行いました。WSの内容については後日報告書が公開されますので、そちらでご確認ください。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

数列を見抜けるかクイズ

数列１：1,3,6,11,18,29,〇

Q: 〇に入る数字はなんでしょう。

数列２：240,480,720,1080,〇

Q: 〇に入る数字はなんでしょう。

ヒント：多くは居間や寝室に置いてあります。

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

第50回 日本医学教育学会大会より

今号の特集

- 今月の教員の声
- 今月の学生の声

今月の教員の声

「つながろカフェ with undergraduate」を終えて

元気プロジェクト委員会　守屋普久子　（病理学講座）

元気プロジェクト委員会（男女共同参画事業推進委員会）は、勤務医の交流会である“つながろカフェ”を、平成28年度から院内で定期的に開いていますが、「学生との交流会も開いて下さい」と医学科学生から強いリクエストがあり、7月11日の午後6時から、医学部基礎3号館1階のミーティングルームで、“つながろカフェ with undergraduate”を開きました。

当日の出席者は25名（男性6名、女性19名）でした。第一部では、久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科部門の大野聡子医師を含む4名の医師に、ご自身のキャリア形成に関するお話をしてもらいました。第二部は、小グループでの意見交換を予定していましたが、第一部があまりにも白熱したため時間が足りなくなり、全員で第一部の感想を話し合いました。

会の詳細は、当委員会のホームページ（http://genki.kurume-univ.jp/）に譲るとして、私が特に感動したのは、4名の先生全員が、子育てと仕事を両立させながらも、素晴らしいキャリアや業績を積んでおられることでした。限られた時間の中でも、物事に集中して取り組んでおられる様子が、よく伝わってきました。むしろ、仕事とプライベートのon-offを区別することが、シナジー効果を産み、より高い業績やキャリアに結びつく、と話された先生もおられました。開会の挨拶をされた当委員会の鳥村拓司委員長も「どの先生もmotivationが高くて素晴らしかった！」と感想を述べました。

本会は、出席した医学生からも高く評価され、大変うれしかったです。

「実習が始まり、自分の未来を考えるようになり、漠然とした不安が膨らんでいましたが、生き生きと輝いている先生方を目の前にして、私の未来にも希望はあると思えました」（5年生）

「漠然と未来への不安を抱いていましたが、先生方のお話を聞いて、いい意味でもっと力を抜いていいんだ！と思えました」（5年生）

「女性医師が仕事を継続するには、パートナーの努力や協力がなければ難しく、もっと男性側の理解が広がるといいなと思いました」（6年生）

本会は、参加者に占める女子学生の割合が高かったですが、男子学生も程度の差こそあれ、医師としての将来に、不安を抱くことはあるのではないでしょうか。誰だって、見えない未来に対して不安を抱くものです。「こんな不安を抱くのは、自分だけ？」と思うと、不安はより大きくなりますが、先輩の経験談を聞いたり、同級生や後輩と、医師としての未来について話しあうことで、「自分だけじゃなかった」と、ほっと胸をなで下ろす場面もあると思います。そのためにも、普段から学内に、医師としての未来の姿について、自由に話し合える雰囲気が、もっとあるといいと思います。

我々の委員会としては、今後も医学生と対話する会を開き、皆さんが未来への不安を少しでも取り除き、希望に満ちた学生生活が送れるお手伝いをしたいと思います。

元気プロジェクト委員会HP

http://genki.kurume-univ.jp/

つながろカフェ with undergraduate

http://genki.kurume-univ.jp/archives/1844

後藤 理英子 先生（熊本大学）

大野 聡子 先生（久留米大学）

今月の学生の声

「第50回日本医学教育学会大会に参加して」

医学科4年 栗崎 道賢

医学科4年の栗崎道賢です。今回、第50回日本医学教育学会に参加させていただくという貴重な体験をさせて頂きました。

私たちが発表したのは昨年度から開始されたRMCPの意義・問題点についてでした。RMCPとは3年次において1人ないしは2人が研究室に配属され基礎医学研究に触れるプログラムのことです。RMCPを通して、基本的な実験の手技や実際の医学研究をしている方がどのように働いているかを肌で感じる事ができ、医学研究に興味を持つ事が出来ました。

今回の発表では、結果の部分を学生3人のディスカッションという特殊な形式で発表しました。そのため、共に発表したメンバー、教育センターの柏木先生と何度もポスターを修正しなんとかポスター作成をすることができました。私は今まで学会での発表をした事がなく、また講義や実習時の発表においても他の人に発表してもらう事が多かったため大勢の教育関係者の前で発表する事はとても緊張しました。発表の練習を当日しかしていなかったため途中詰まってしまい練習不足だったと痛感したのでこれからこのような機会があるときは今回の反省を活かしていきたいと思います。学会に参加させていただいて最も有意義だったことは他大学の学生がどのような教育を受けているか、またどのような活動を行なっているかを知る事が出来たことです。

最後になりましたが、今回の医学教育学会に参加することを提案してくださり、ポスター作成の手助けをしてくださった柏木先生をはじめとして、教育センターの方々に大変お世話になりました。この場をお借りして、貴重な体験をさせてくださった事に対してお礼申し上げます。

医学科4年 酒井 友里花

医学科4年生の酒井友里花です。第50回日本医学教育学会大会でポスター発表をさせていただき、とても良い経験になりました。

それぞれ異なる研究室に配属された3人で１つのポスターを作成し、４分間の発表を行うのは少々大変でした。一人がメインで発表、残る二人は30秒ほどの発表で、私は後者でしたが少し物足りなく感じました。3人ではなく1人で行った方がポスター作製も発表も、まとまりが出ると感じました。中原くんが述べていた様に、今回の私達の発表は基礎医学研究室に配属された者だけの意見となっており、RMCPに対する肯定意見が大半でした。研究に費やす時間やどの程度研究に携われるか、延いては学生の満足度は各研究室によるところが大きいので、もう少し否定的な意見も掘り下げた発表ができたら良かったです。

また、学生の研究室配属を行っている医科大学はたくさんあるので、他校の生徒と研究室配属プログラムについての対談ができたらより面白い発表内容になったと思います。

他校の学生の発表を見るのは初めてだったので、とても興味深かったです。多くの医科大学が様々な教育についての取り組みを行っていることを知り、我が大学のRMCPも今後さらに発展させていく必要があると感じました。そのためには、生徒に対するアンケートの回収率を上げること、そしてそのアンケート結果を次年度に生かすことが必要です。アンケートの回収率を上げるためには、アンケートの配布、回収を各研究室で行い必ず提出させるなどの取り組みが必要だと思います。今後の久留米大学の教育のためにも、さらなるRMCPの発展を望みます。

最後になりましたが、今回の医学教育学会大会での発表にあたって、ポスターの指導などをしてくださった柏木先生をはじめ、多くの先生方に大変お世話になりました。貴重な体験をさせていただいたことを、この場をお借り致しまして、お礼申し上げます。

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

Q： クリニカルスキル・トレーニングセンターは誰でも使用できますか？

A： 本学の教職員と学生の方々であれば、一年中無料で使用できます。

Q： 施設にはどのようなシミュレータや機材が配置されていますか？

A： センターのホームページをチェックしてみてください。（https://www.kurume-u.ac.jp/site/cstc/）

不明な点は、電話による直接の問い合わせでも大丈夫です。（内線 6597）

次号にクリニカルスキル・トレーニングセンターの続報を予定しています。

片山 礼司

医学科4年 中原 孝

今回第50回日本医学教育学大会に参加させていただきました、医学科4年の中原孝です。昨年行われたRMCPの内容についてポスター発表をさせていただきました。ポスターの内容としては3人のそれぞれの研究内容の紹介と3人でRMCPの問題点、改善すべき点、よかった点を議論しその一部を記載するというものになりました。与えられたリソースの中で良いポスターを作成することができたと思います。

今回のポスター作製、発表に関わった3名は皆、基礎系の研究室に配属され、教員からの指導が受けやすい環境にあったためか、RMCPについて肯定的な意見を持っている3人でした。クラス内でRMCPの前と後にアンケートを取るなどして、クラス全員分の客観的なデータを示すことができていればより良い内容になったと思います。今回は事前承諾の関係でアンケート結果を利用することができなかったので少し残念に思いました。来年度以降はクラス全員から承諾を得て、クラス全員の回答が集まるようにすると良いと思います。また、基礎系の講座に配属されたか、臨床系の講座に配属されたか、学内か、学外か、部活に所属しているか、学園祭の運営に携わっているかなどの学生のバックグラウンドによるRMCPに対する評価の違いについて調べてみると面白いとおもいました。

発表の会場では他校の学生や先生方が多数来られていて、その目の前で発表することに緊張を覚えました。私たちは3人でポスターを作成し、3人で発表したのですが、発表者は1人の方が進行や質問対応がスムーズにできたのではないかと発表終了後に少し感じました。会場で他校の学生の発表や先生方とのやり取りを見ることは大変刺激になりました。医学教育といっても様々なトピックがあることを実感しました。今回貴重な機会を与えていただきありがとうございました。今回の経験を活かし、より広い視野を持ちつつ、意欲的に日々の学習や実習等に取り組みたいと思います。

RMCPについての個人的意見としましては、私はRMCPに大変満足しています。RMCPを通して新たな知識、技能を習得することができ、研究に興味が持てました。

全体を見渡したときの改善すべき点としましては、配属先とのマッチングの際に配属先がコアタイムを設定する、配属先の先生方が生徒に対応できる時間や余裕を知らせておく、前年度の先輩の声を公表するなどをして生徒の希望と配属先の特性がマッチするような仕組みを整備する必要があると感じました。私たちは初年度ということもあり、講座と研究テーマという情報だけで配属先を選ばなければなりませんでした。

また、学外受け入れ先との事前の綿密な打ち合わせやトラブル対応などはしっかりとしてほしいと思いました。そして、予算の問題にはなりますが、学外配属の交通費および旅費を大学に負担してほしいです。家庭環境を理由にやる気のある学生が学外でチャレンジする機会を逃してしまうのは悲しいです。研究に集中できるような環境づくりをして、モチベーションのある学生の背中を押すようなより良いプログラムになってほしいと思います。

日本医学教育学会

http://jsme.umin.ac.jp/

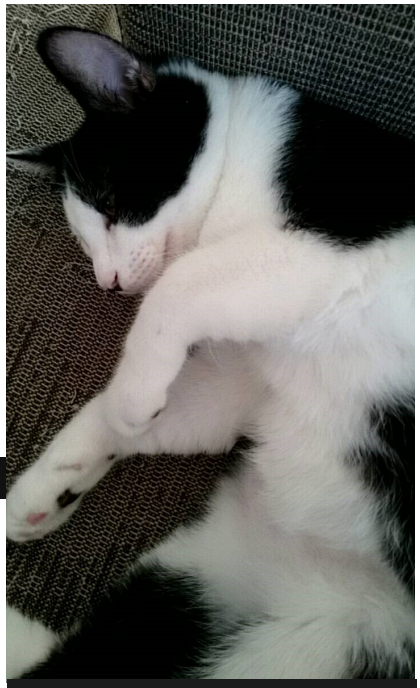
第50回日本医学教育学会大会

https://
site.convention.co.jp/50jsme/

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第２９号です。「I am too busy to tell you how busy I am.」・・・！？。ユーモアのある too…to～ 構文ですね。私はこの文で too…to～を覚えたのですぐに頭に入りました。



今月のニャンコ（ヘソなし）

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター 編集担当：柏木 孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
https://csme.kurume-u.ac.jp E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp